

通勤列車への襲撃

中村 千代松

大和町四丁目

今日もまた事務室の窓の下を兵隊さん達が声高々と、軍歌を歌いながら、小銃の代用として竹の棒を担いで、行進していきます。

列の中程には、竹で作られた戦車を仮想した大きな籠を四人で担いで行くのが見えました。

毎日のように空襲があり、戦場と化した国土を国民は竹槍で守るのだという状況でした。

その頃のある日の事です。朝から天気良かったせいか、早朝から大井飛行場（現在菊川町）を敵機が爆撃しているとラジオが報じていました。

出勤をする為に、足にはゲートルを巻き、鉄兜を背負い、身支度をして家を出ようと庭に出た丁度その時、敵戦闘機が低空で私の家の上を旋回しています。ドドドドと機銃の音がしたので見上げると、操縦している米兵の顔がはつきりと見え、大きな声なら聞こえそうな距離であったので、驚いて家族を庭の防空壕にあわてて避難させ、自分も続いて飛び込みました。機種

はグラマンで、私がこれから乗車しようとする掛川駅の列車を攻撃していたらしいのです。

敵機が飛び去るのを待つてから、自転車に乗って駅に向かいました。駅には通勤列車が出発を見合わせて停まっていたので、駅長室に入り、列車の運転状況を聞きますと、まだ大井飛行場が攻撃されているが、敵機が去ったら列車を出発させようという話でした。

こういう時は万が一を考えて、できるだけ空いた車両を見て乗り込みました。その後、飛行場には時々敵機が攻撃をしているが、列車は出発させようとの事で、動き出しました。

途中、金谷駅までは何事もなく過ぎ、いよいよ大井飛行場の下にきました。ここを無事に通過すればと願っていましたが、幸い何事もなく列車はもう大井川の鉄橋を渡って島田駅に入ろうとしていました。

その時、誰かが大声で敵機だと叫びました。「スワッ」と身体を伏せて腰掛けの下に腹ばいになりました。と同時にダダダダ

と銃声がし、そして列車は島田駅のホームに滑り込んで停車しました。

敵グラマン戦闘機は私達の乗っている通勤列車を襲って来たのでした。そつと頭を上げて車窓から外を見ると、敵機は列車を中心に円形を描いて、頭上を飛び去ってはまた襲撃をしてくるのです。

いつ自分の乗っている車両がやられるか分かりません。これは列車を離れた方が安全ではないかと、ようやく洗面所の所まで這い出して来ました。

すると、外でパチパチと何かが燃えている音がします。まさか列車が燃えているのではないかと、恐る恐る乗降口のドアを開けて外を見ますと、十メートルくらい離れた貨物ホームの小屋が黒煙を出して盛んに燃えています。

時間が経つにつれ、手前の方の車両から敵機の隙をみて線路を横断して町の方へ数人の人が逃げて行くのが見えます。

私は列車から飛び降りて車両の下に入り込み、車両とホームの間に身体を横にして、成り行きを約三〇分も見守ったでしょうか。プロペラの音もしなくなり、敵機はようやく引き揚げたらしく、みんな緊張から我に帰り、ホームに三々五々降りてきました。

敵機は機関車を狙ったらしく、前部の車両が流れ弾で客車の屋根や横腹等、弾で射抜かれ、直径三センチ位の穴が空いてい

ました。

乗客も一人死亡したようです。機関車は運行不能となったため、静岡から救援機関車を呼び寄せてようやく出発する事が出来ました。

なお昭和十九年末から二〇年八月の終戦までに、静岡県の歴史「廃墟の中から」によれば、静岡は米軍機の空襲に曝され、静岡県第二の都市浜松市も、B 29爆撃機と艦砲射撃により、特に七月二九日から三〇日未明にかけての、アメリカ第三艦隊巡洋艦「クインシー」等八隻による艦砲射撃では、二一六〇発もの砲弾が市内に撃ち込まれました。

また清水市では湾内に潜入していた潜水艦から砲撃されました。

このような状況下の一齣ひとコマの体験でした。